

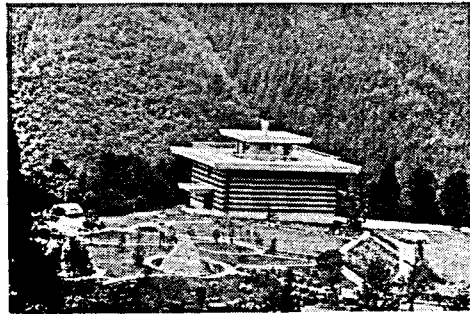
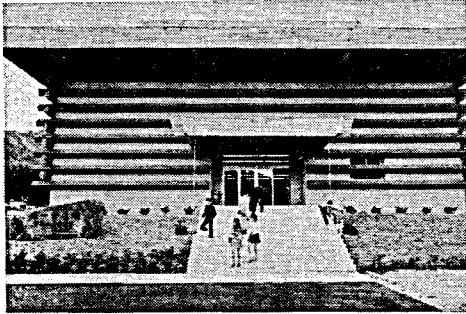
館・園 紹介 No 12

中部山岳考古館

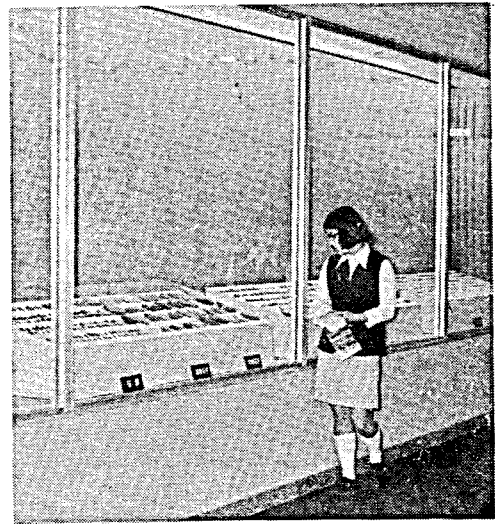
〒509-22 益田郡下呂町森地

下呂温泉

峰一合遺跡公園内の新名所！



- (上) 中部山岳考古館正面入口
- (下) 縄文・弥生時代の復元住居の立ち並ぶ峰一合遺跡公園。飛驒川左岸の高台に、下呂温泉の新名所がまたひとつ増えました。
- (右) 石錐、石斧等の出土品が展示されている考古館内部。二階展示室。



科学技術が進歩し、いたるところで都市化が進むにつれ、人間のあこがれは、自然景観・民俗風習に向けられるようになってきた。今や観光対象は、湯の街・温泉だけでは物足らず、自然や風俗とのかかわりの中に求めなくてはならなくなってきた。あわせて、余暇の増大とともに、人間の生涯教育論が云々されてきた。こうした時期に、下呂町では、古いイメージを打ち破り、新しい時代に答える観光地をみざして、縄文遺跡を復元した峰一合遺跡公園を整備され、中に「中部山岳考古館」を建設された。峰一合遺跡公園は、下呂繁華街の東南、飛驒川左岸の高台にあり、訪れてみると、眺めがすばらしいだけでなく、自然風土の条件を考へて生活していた人類祖先の知恵が忍ばれて、感動をおぼえる。ここは、昭和41年以来、発掘調査が続けられてきたもので、遺跡・遺物を末長く保存するとともに、より多くの人々に見ていただくことと計画されたもので、復元住居は、縄文時代のもの4戸、弥生時代のもの1戸、それに、縄文時代前期の住居跡ひとつが、保存館内に発掘状態のまま保存され、柱跡などが、四方八方のガラス窓越しに見ることができる。復元住居内には、当時の人々の生活振りを表現した等身大の人形が展示されているが、自由に出入りできるため、ついついのいたづらが目立つ。せっかくの設備を、訪れる者が上手に利用できない後進性。情ないことである。出土品・遺物は、やゝ気負いすぎた感がしないでもない名称の「中部山岳考古館」に展示されている。一億一

千万円の工費をかけただけに、じつに立派な内・外部、じゅうたん敷きの床、展示ケース内の配色と、落ち着いた地味な雰囲気づくりに苦心されている。しかし、オープンして間もないだけに、今後に残された課題も多い。展示品そのものは、貴重な石鏃・石匙・石斧・石錐……等の石器、土器、土器片など、興味を持った人々には、それなりに楽しいものばかりである。しかし、落ち着いた内装と、無表情な遺物の展示とが、むしろ堅苦しさ、いかめしさを先に出す結果となり、だれもが気楽に訪れて、考古学に触れるといった、知的レジャー施設としては、今一步の工夫がいるのではないだろうか。博物館は、学問の殿堂であるとともに、大衆娯楽に答える劇場でもあらねばならない。展示を通して、人々に何を語り、何を訴えるのか。全体を通したストーリーと思想を持つべきである。資料の陳列に終わることなく、資料を駆使していかにしえのドラマを展開し、それに接することによって、今の人々が、自らの明日をみつめ考えることに追い込まれるような、そんな知的レジャーセンターとなることを願って止まない。

観光と社会教育の接点で、どんどん広まりつつある今日、専門職員を多くされ、教育活動を盛んにされたなら、魂を忘れた今日のGNP優先主義の物質文明におぼれた人類社会を救い、わたしたちの生きるよろこびを呼び起こしてくれる、新しい時代の本物の観光施設として、人々に親しまれるにちがいない。一夜、下呂温泉の湯にどっぷりとつかり、体の疲れをいやすとともに、峰一合まで歩いて訪れてみませんか。大自然との調和の中で、生活を営んできたわたしたち人類の祖先、その歴史の跡にただずむとき、病める現代人への警告が、あちこちから聞こえてくるにちがいません。心の安らぎとなるとともに、あなたの未来の指針を暗示してくれる場所なのです。（写真・文 小野木）

岐博協諸氏のご協力とご指導を

岐阜県益田郡下呂町役場 商工観光課

峰一合遺跡は、昭和41年より6次に亘り、日本考古学会員である小坂町の大江傘先生はじめ諸先生方の指導により、発掘調査された縄文遺跡であります。この遺跡は、縄文時代6000～4500年前の住居址と遺物、さらに弥生時代の住居址及び遺物も発見されました。遺構は、縄文時代前期～中期に属する住居址6ヶ所と弥生時代末の土器を伴う住居址1ヶ所が調査の結果確認され、また石組遺構が三ヶ所認められ、特に1ヶ所は住居址内に設定されている。住居址は発掘地点に縄文住居址4ヶ所と弥生住居址1ヶ所を復元しました。

出土遺物としては、石器類、土器類、自然遺物などがあり、石器類は附近の谷より出土する安山岩によって造られたと思われる石鏃、石錐などが出土している。土器類は、押型文、爪型文、または朱彩土器など種々な土器が出土して



いる。自然遺物は、クルミの炭化物とともに、全国で三度目の発見といわれるパン状炭化物が発見され、これは考古学会より貴重な資料として注目をあつめている。

当下呂町では、我々の先祖が残したこのような貴重な遺物を後世に残すために、去る44年より遺跡の保存工事に着手し、本年5月には中部山岳考古館を建設し遺物の一般公開を始めました。この考古館は、岐阜県考古学会の本部として、また中部山岳の考古学の拠点として作られたものであります。（P3左下端へ続く→※）

東海地区博物館協議会 岐阜大会に望む

横須賀市博物館 学芸員 蟹江 康 光

9月9・10日に開催される岐阜大会には、愛知・岐阜・静岡・山梨・神奈川から多数の方々が参加されることと思います。望まれていた岐阜県博物館が計画されているこの時期に、東海地区博物館協議会岐阜大会が開催されますことは、たいへん意義ある大会になることと思います。これより少し後に、9月19日から22日まで、第20回全国博物館大会が札幌で開催される予定になっております。開催の期日が接近していますので、全国大会とはまた異った岐阜大会が開かれることを要望します。

わたくしどもの博物館は、昨年10月に第19回全国博物館大会の会場を引き受けさせていただき、皆様方の希望に充分答えられなかったと思いますが、大会を終えて、また未来の大会に幾つかのことが経験的に言えると思います。

①大会は各地から各種の施設から、各種の学芸員が短期間に集まってくるので、これらの人々が充分討論したとしても、明確な結論を出すことは困難である。博物館職員の親睦が、いくらかでも行なわれれば、大会の目的の半分は達成されたと考えます。

②大会は、そこに集まってくる人達で構成され

ているということです。第19回大会の時にA氏は「当局に要望する」と発言されましたが、このような大会には、当局などは存在しないということです。

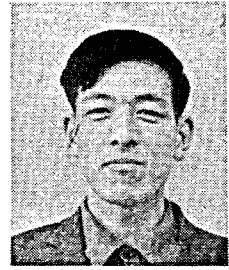
また大会終了後、B氏はある機関誌に次のように報告しています。

「わたしは、19回大会に3年振りに出席してみた時、最後まで、ほとんど発言の意欲を持てなかったことに、あとで気づいた」こんな人は、はじめから、大会に参加する資格がないということである。

③どんなつまらない大会でも、多数の人々が貴重な時間を費やして(19回大会のときでも、少くとも100名近くの人々が7ヶ月かけて)行なわれているということである。

つまらないことばかり書きましたが、ひとりひとりの参加者の努力、積極性こそが、岐阜大会をすばらしいものにすると思います。

大会のご成功を期待しております。



“お知らせ”「博物館に相当する施設」の指定手続の変更について

— 編 集 部 —

従来は、県教育委員会を通して申請し、国によって指定されていた「博物館相当施設」が、「許可・認可等の整理に関する法律(昭和46年6月1日、法律第96号)」の施行により、国立のものを除いて、その施設の所在する県の教育委員会が指定することに変更されました。

設置者が、所定の申請書により、「博物館に相当する施設の指定」を申請しますと、県の教育

委員が、別に定められている指定審査要項によって審査します。建物はおよそ132㎡以上の延面積を有すること。実物・標本・模型等の資料を有し、整理・分類して保管していること。学芸員有資格者あるいは、それに相当する専門的職員を有すること。事業計画があること。運営諸規定があり、年間100日以上開館していること。……等いろいろの要項が示されています。

当協会々員の各館園で、「博物館相当施設」の指定を望まれるところは、どんどん、岐阜市藪田 岐阜県庁内、岐阜県教育委員会 社会教育課まで申し出られ、詳細を問合わせられるとともに、関係の諸文書・書類等をお取寄せにされることをおすすめ致します。当協会事務局でも、ご相談に応じますので申し出て下さい。

※近年地域開発による自然環境と歴史遺産の破壊には目に余るものがあります。中部山岳考古館は、このような破壊から遺産を保護し、考古学を広く伝える重要な責務のあることを充分認識し、峰一台遺跡の改善を行ない、内容の充実をはかるため、利用者または協会諸氏のご理解ある協力とご指導を願うのであります。

博物館学メモ(3) 自然史分野の「展示」はどうあるべきか

稲羽中学校教諭・学芸員, 小野木三郎

博物館にとって、きわめて重要な教育活動、その中心となる「展示」は、収集品に解説をつけてただ並べるだけのものではない。収集資料 — ものの持っている価値のみに頼って、学問的分類、種類別、時代別、地域別……等々により配列したのでは陳列にすぎない。展示とは、資料、実物、標本等を駆使して、人々に語りかけ、考えさせるために、全体としてのストーリーを持ったドラマでなくてはならない。そのために、何を考えさせ、何を訴えるのか、背景に流れる思想・哲学を持っていないとてはならない。ここに、「展示」のあるべき根本の姿を、日頃思うことを整理し図示してみた。この原理は、自然史のみならず全ての博物館展示にあてはまることであろう。





岐阜天文台 台長 正村一忠

◎3年目を迎えた天文教室も、新しい企画と観測施設を利用して、いよいよ充実、4月開講以来順調に進めています。8月以降の実施予定は下記ですので、親子連れでも多数誘い合っ

て下さい。交通便上、当夜帰宅困難な場合は 宿泊利用の相談にもります。

☆第一土曜 中学生教室

8月5日 星座と伝説、9月2日 隕石のはなし、10月7日 宇宙のはては？ 11月4日 変光星とその観測、12月2日 かに星雲のなぞ

☆第二土曜 小学生教室

8月12日 地球の兄弟星 9月19日 月の世界 10月14日 秋の星座と宇宙 11月11日 流れ星のはなし 12月9日 ロケットと人工衛星

☆第三土曜 高校生教室

8月19日 天文計算の初歩 9月16日 月 10月21日 変光星観測法 11月18日 ミクロ宇宙からメガ宇宙へ、12月16日 1973年の天象

学習教材費として1回分250円いただきます。日本天文学会、東亜天文学会、岐阜天文台等の諸先生方の指導により、18時より講義、19時30分より実地観測をします。申し込みは、羽島郡柳津町高桑 岐阜天文台まで 電話でも可、<0582>79-1353まで。

≡ 県内 ニュース ≡

岐阜県博物館の動き

6月に特別専門委員会(展示部門)、6月末から7月上旬にかけて、地区別懇談委員会を、六教育事務所管内で開き、展示についての実施計画案等を検討しはじめている。

去る6月22日には、国立科学博物館の事業部長鶴田総一郎氏を招き、展示計画や公園と博物館のあり方などについて研究し、公園現地を視察した氏は、ストックホルムにあるスカンセン野外博物館に匹敵する施設がとれる立地条件だと述べられたということです。このことは、当協会等が、当初から声を大にして叫んでいることで、全体を都市公園化することなく、博物館自然分野の館内展示と、周辺の自然とが有機的に一体化した自然公園づくりをすることである。わたくしどもが、過去に提言、要望してきました数々のことが、いかに具体化、実現するか、期待をもって見守っていきたいものです。しかし、開設準備室の中には、スカンセン野外博物館を見学した人はひとりもいない。外国の先進諸館園は云うに及ばず、我が国先進県の諸館園をつぶさに見学し、問題点等の徹底的追求も充分なされていないのではないだろうか。未来に生き、あすを創造する博物館の実現のため

には、数多くの人々の知恵を集めなくてはならないし、直接準備に携わっている開設準備室員の調査・研究に、多額の費用を計上すべきであろう。知事さんたち一部の海外視察では、具体化の段階で少しも生かされない。開設準備室は、明日に悔いを残さぬためにも、勇気を持って調査研究費を獲得されたし。

瑞浪に化石博物館計画

中央自動車道建設地一帯は化石の宝庫で、瑞浪市文化財調査団では、プレハブ棟にいっぱいの化石資料を発掘し、県や文化庁へ化石博物館建設について働きかけている。道路公団から準備調査費3000万円が計上されている。

揖斐川町郷土資料館盛況

本誌10号で予報したように、下は図書館、上は郷土資料館として4月10日オープン。貴重な資料としては、寛政6年の絵図、桃山時代作と思われるナギナタ。もじり、小谷のつぼなど。古田佐久間館長が、事務から説明まで一人でがんばっておられる。月曜日と土曜日の午前中だけ休み。10時から夕方6時までの開館。

養老に自然こん虫園

初打合わせ会が、6月14日県庁でもたれ、月末に現地を視察。県では早くより東京の多摩動物公園のこん虫館などを見学し、参考としている。今後降雨量、気温、こん虫の生息状態等を調べ、どんな施設にしたらよいか煮詰めていく。できる限り人間の手を加えず、繁殖、成育はいっさい自然にまかせることが特徴となるよう配慮するという。

民俗資料館あちこちで!

揖斐郡大野町・益田郡小坂町・萩原町・馬瀬村・大野郡久々野町・高根村・朝日村・宮村・清見村・吉城郡河合村・上宝村・国府町・宮川村等々では、近い将来、郷土資料館を建設しようという気運が盛りあがっている。

県教委では、博物館としての資料館はいかにあらねばならないか、など、適切な事前の行政指導・援助をする必要がある。

現存する資料館等を見ると、博物館としての機能を持ち、生きて地域に働いているところは、極めて少ない。「博物館」の何たるか…を知らず

につくっていることが多いのではなからうか。

根の上高原に山草園づくり

中津川市の西生寺住職朝倉秀麿氏は、中津自然愛好草花会をつくり、工業開発ではげ山にされかけている茄子川地区のサギソウ、サワラン、モウセンゴケ等を根の上高原に移し、山草園をつくって保護育成したいと計画している。植物園の少ない本県としては、ありがたい計画。やはり博物館としての山草園経営を望みたい。

高山、藤井美術民芸館が開館

古美術収集研究家の藤井紘一氏が、多年にわたり収集された、絵画、民芸具、陶磁器、染織物、漆器等を展示。入口には、高山城の登城門を復元し、美術館は、江戸時代の土蔵づくりの名人「江戸万」の工法による土蔵を改装したもの。利休の書、明時代の中国製盆、古備徳利などが逸品である。高山市上三之町。

昭和47年度 総会のご案内

岐阜県博物館協会の昭和47年度総会を、下記のように開催致しますので、多数ご出席下さるようお願い致します。

- 昭和47年度 岐阜県博物館協会総会
期 日 8月10日(予定)午後1時
場 所 岐阜市金華山頂 天望台
議 題 ①名和正男副会長死去により副会長の選出
②事務局・編集室報告・会計報告
③9月の東海博物館協議会総会に対する主催県としての諸計画
・明方寒水掛跡見学
・山の家泊(エキピション伊勢がくら、郡上盆踊、懇親会など)
・博物館学シンポジウム
・明方村民俗博物館他郡上地区の諸施設見学
④その他

故名和正男副会長追悼会を総会後次の要項で行いますので、ぜひ多数お出かけ下さい。

◎従五位勲四等瑞宝章・勲記被露

◎岐阜県博物館協会香奠贈呈

◎名和正男フィルムライブラリー中より、全国コンクール優賞作品上映・観賞、

◎追悼スピーチ

編集後記 ◎男性的な今年の梅雨、めっきり蒸し暑くなりました。小誌も、夏バテ…発刊がつい遅くなりましたことを、まずおわび致します。

◎小生、目下カラーライドにて「博物館へどうぞ—岐阜県内—」を製作中です。できるだけ多くの館園等を収録しようと意気込んでおります。取材にお寄り致しました折は、写真撮影の便宜など、よろしく願います。

◎ご案内しましたように、本年度総会は、故名和正男氏の追悼会も兼ねて行なわれます。ぜひ多数ご参加下さい。ところで、先号、「特集名和正男氏を偲ぶ」はいかがでしたでしょうか。九月の東海大会で、氏の独特な風貌にお目にかかれないのは、残念至極!! Sab.